（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和６年度　学校自己評価システムシート（県立川口工業高等学校【単位制による定時制の課程】）

目指す学校像	豊かな人間性を身につけ、地域産業を担う技術者を育成する。

重点目標	
	１　ＩＣＴを効果的に活用し、 「わかる授業」の実践に努め、高校生としての必要な学力を定着・向上させる。 ２　充実した学校生活と進路実現のために、生徒指導及び進路指導の充実を図る。 ３　地域との連携を深めると共に、 工業高校生としての取組を積極的に発信することで開かれた学校づくりを目指す。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	３名
	生徒	３名
	事務局（教職員）	８名

学校自己評価							
年度目標					年度評価（１月２７日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	**【基礎力向上の取組みの継続】** 生徒個々に応じた授業改善や日本語支援員・学習サポーターを活用したサポート体制などの取組みにより、生徒の授業への参加意欲も向上し、欠点保有者・成績不振者も減少傾向にある。今後もこれまでの取組みを継続し、ＩＣＴ活用や授業改善を進めることで、主体的・積極的に学習する態度を育成することが課題である。	生徒の授業への参加意欲を高めることができたか。	日本語支援員や学習サポーターを活用し、日本語の苦手な生徒や苦手科目のある生徒に対する指導を充実させる。	・成績不振による進路変更をする生徒０名（昨年度末０名） ・成績不振者（欠点保有者）の減少（昨年度末10%）	・成績不振による進路変更をする生徒０名 ・成績不振者は１学期末 23名（30%）、２学期末27名（36%）（長期欠席者を除くと１学期末 16名（21%）、２学期末 21名（28%））	B	長期欠席者や遅刻・欠席を重ねる生徒が成績不振を招いているので、授業への出席を働きかける取組みに加え、日本語の苦手な生徒への日本語支援員や学習サポーターをさらに効果的かつ組織的に活用する。
		生徒個々に応じたわかる授業を展開することができたか。	生徒のタブレット活用など新たなＩＣＴ活用に取り組み、観点別評価による授業改善を進める。	・成績優良者（評価平均4.3 以上）の増加（昨年度末21%） ・教員の「授業にＩＣＴを活用して指導する能力」に対する自己評価の向上	・成績優良者は、１学期末11名（14%）、２学期末 13名（17%） ・教員の「授業にＩＣＴを活用して指導している割合は増加している。	B	ＤＸＨ事業で導入した電子黒板や１人１台端末時代のＩＣＴ活用も含め、引き続き授業改善に取り組み、個々に応じたわかる授業を展開させる。
2	**【全教職員で取り組む生徒指導・キャリア教育の継続】** 教職員が一丸となって生徒指導を行い、ほとんどの生徒が基本的生活習慣を身に着けることができている。また一部の生徒は学校生活と仕事（アルバイト）の両立ができている。 具体的な進路目標を持たない生徒が少なくない中、キャリア教育等を充実させ、より早い段階で目的意識を向上させる必要がある。	生徒が基本的生活習慣を身に着け充実した学校生活を送ることができたか。	家庭との連絡を密に行い、家庭との連携をしながら無断遅刻欠席のない充実した学校生活を送らせる。	・毎月実施する遅刻者指導対象者の減少（昨年度１日平均 2.53 人 全校生徒数の約4%）	・１日の無断遅刻平均は1.4 人であった。（全校生徒数の約1.7%） ・１日の遅刻者平均は10.12 人であった（全校生徒数の約13%）	B	遅刻している生徒はほとんどが同じ生徒であることから、時間をきっちりと守ることができるよう生活習慣から見直すよう指導する。
		生徒がより具体的な進路目標を確立し、その実現に向けて努力ができたか。	外部の教育機関との連携を軸にキャリア教育の充実を図る。また、年間を通しキャリアパスポートを活用して進路意識を向上させる。	・４年次の卒業時において、全員の進路先を決定 ・具体的な進路希望を持つ生徒の増加	・就職希望者５名中３名内定、進学希望者１名合格 ・全学年次を通して、進路希望調査の実施。	B	今まで以上に生徒への意識付け（外部機関の活用、面談）を心掛け、進路実現に向けた指導強化を図る。
3	**【積極的に取り組む保護者・地域との連携】** 保護者・地域に本校定時制の教育活動を理解いただくため、日常の情報発信と、地域に貢献・還元するイベントの実施を積極的に進めていく必要がある。	保護者や地域へ本校の教育活動を積極的に情報発信し、理解を高めることができたか。	学校行事や学年行事等の日常の教育活動を中心に、ホームページ等で定期的に情報発信する。	・本校ホームページの閲覧数の増加（昨年度比 8%増） ・本校ホームページへの投稿・記事更新数の増加	・本校ホームページの閲覧数は昨年度とほぼ同数。 ・本校ホームページへの投稿・記事更新数は昨年度とほぼ同数。	B	引き続き本校ホームページの内容を充実させるとともに、ＳＮＳ（Instagram など）による情報発信を試行する。
		地域に貢献・還元するイベントを積極的に行うことができたか。	全日制や外部の学校説明会、「かわこうざ」「子ども大学かわぐち」など、地域の方が参加できるイベントを積極的に行う。	・地域イベントへの参加者の増加 ・学校説明会等への参加者の増加	・地域イベントへの参加者数は昨年並みであった。 ・全日制の学校説明会等においては定時制の説明・見学希望が増加している。	A	ＤＸＨ事業の取組みのひとつである地域のものづくり拠点として、全日制との協働をさらに進め、地域との連携を深める。

学校関係者評価
実施日　令和　７年　１月３０日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・生徒数が増えたことによる指導の難しさ、学年が上がったことによる難易度の向上によって、成績不振者が増えたのではないか。 ・授業でのＩＣＴの活用について、動画を見られることによる理解の促進が感じられる。 ・家庭ではあまり勉強していないが、登校して行事やその日の出来事についての会話があり、楽しく通学できていることが成績の向上にも繋がっていくのではないか。
・遅刻者の傾向として人間関係を理由として休み始め、登校しづらくなってしまうケースが多いのではないか。登校のきっかけを与えられるような指導があるとよい。 ・学校行事での欠席が目立ったのは残念だった。 ・進路説明会では興味を持っていなかった分野でも話が聞けて良かった。 ・インターンシップは希望しても参加できない場合もあるので、企業数や業種を増やしてほしい。
・日頃の学校の様子がわかるホームページが定期的に更新されているのが望ましいので、継続してほしい。 ・行事・地域イベントを企画・運営する生徒が一部の生徒に限られているので、より多くの生徒が企画・運営に携わって機会を増やしてほしい。 ・地域イベント等を通じて、ものづくりの好きな生徒が多く入学することを期待している。